

2002年度 中間決算説明資料

2002年 11月

- 2002年度 連結中間決算の概要 P3
- 連結セグメント別受注高・売上高 P5
- 貸借対照表 P7
- 有利子負債・キャッシュフロー P8
- 研究開発費・減価償却費・設備投資 P9
- 2002年度 単独中間決算の概要 P10
- 連結事業セグメント別の状況 P11
- 2002年度 通期の業績見通し(連結) P17
- 年度見通し(受注) P18
- 年度見通し(損益) P19
- 冷熱事業損益改善対策 P20
- 工作機械損益改善対策 P21
- 2002年度見通し(連結セグメント別受注高・売上高) P22
- 2002年度 通期の業績見通し(単独) P23

2002年度 連結中間決算の概要

(億円)

	'02中間期	'01中間期	増減	増減率
受注高	8,105	9,732	1,627	16.7%
売上高	10,901	12,526	1,624	13.0%
営業損益	265	203	61	30.1%
経常損益	25	27	1	6.2%
特別損益	7	131	139	-
税引前損益	33	103	137	-
当期損益	6	82	88	-

特別損益(7)の内訳: 投資有価証券等評価損 25
 投資有価証券売却益 + 32

営業損益 増減要因

+61億円

(’01.中間期:203 ’02.中間期:265)

売上総利益 +59億円

- ・売上減少の影響 216億円
- ・事業内容の改善 + 233億円
- ・為替の影響 + 42億円
ドル@¥119(’01.中間期) @¥122(’02.中間期) 他

販売費・一般管理費 + 2億円

- ・R&D・開発費等増加 11億円
(原動機関連、システム改革投資関連 他)
- ・販売費等減少 + 13億円

営業損益増減 + 61億円

税引前損益 増減要因

+137億円

(’01.中間期: 103 ’02.中間期:33)

経常損益 1億円

(’01.中間期:27 ’02.中間期:25)

- ・営業利益増加 + 61億円 (左記の通り)
- ・営業外損益 63億円
(’01.中間期: 176 ’02.中間期: 239)
 - ・為替差損益 128億円
ドル@¥133(’01.期末) @¥122(’02.中間期末)他
 - ・持分法投資損益 + 51億円
(三菱自動車(株) 持分法適用範囲より除外 他)
 - ・その他 + 14億円

特別損益 + 139億円

(投資有価証券等評価損 減少 他)
(’01.中間期: 131 ’02.中間期: 7)

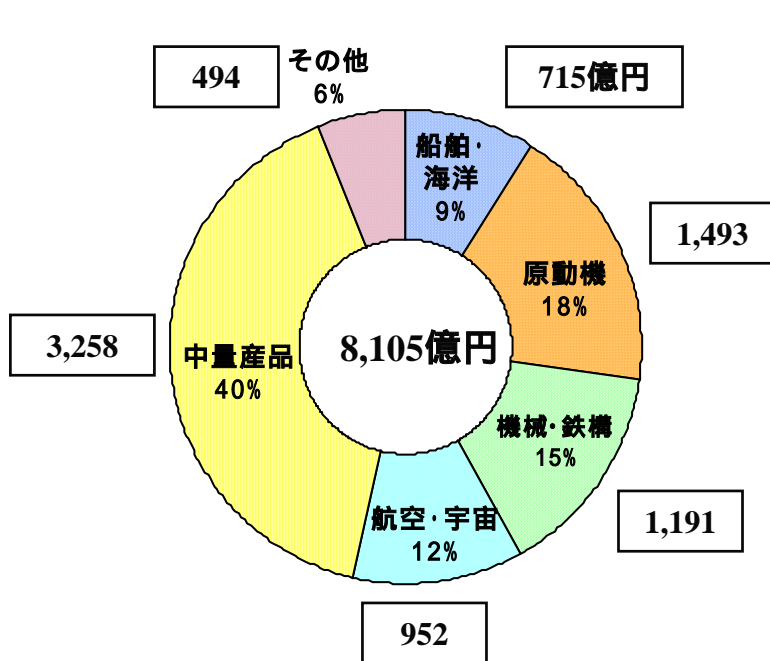
税引前損益増減 + 137億円

当期損益+88億円

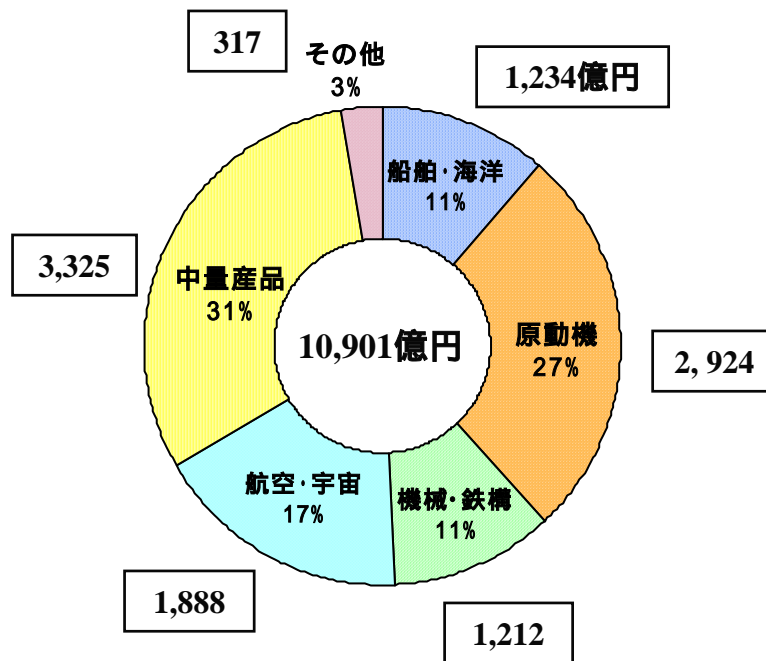
(’01.中間期: 82 ’02.中間期: 6)

連結セグメント別の状況(2002年度中間期実績)

受注高

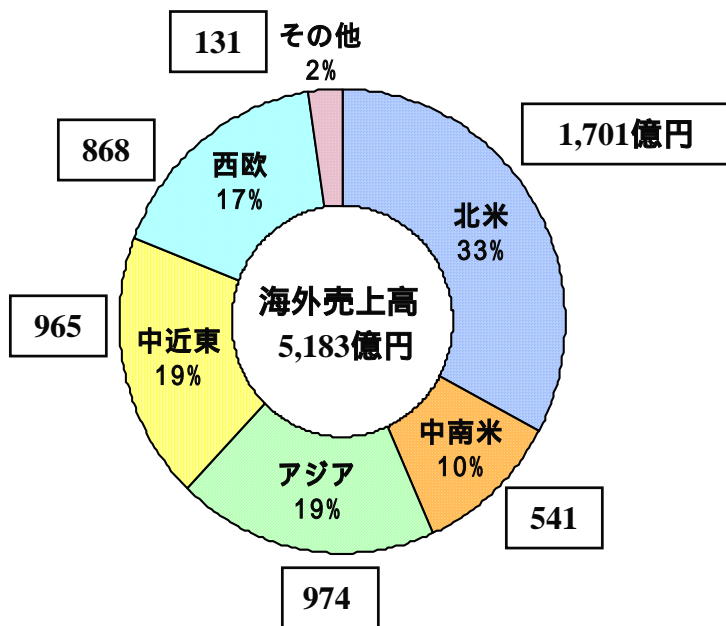


売上高

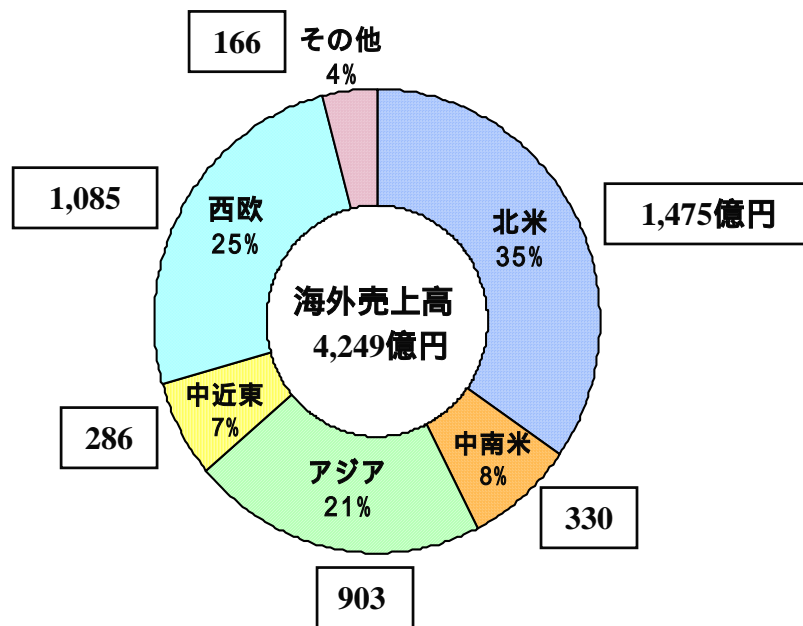


海外地域別連結売上高

2001年度中間期実績



2002年度中間期実績



貸借対照表

資産

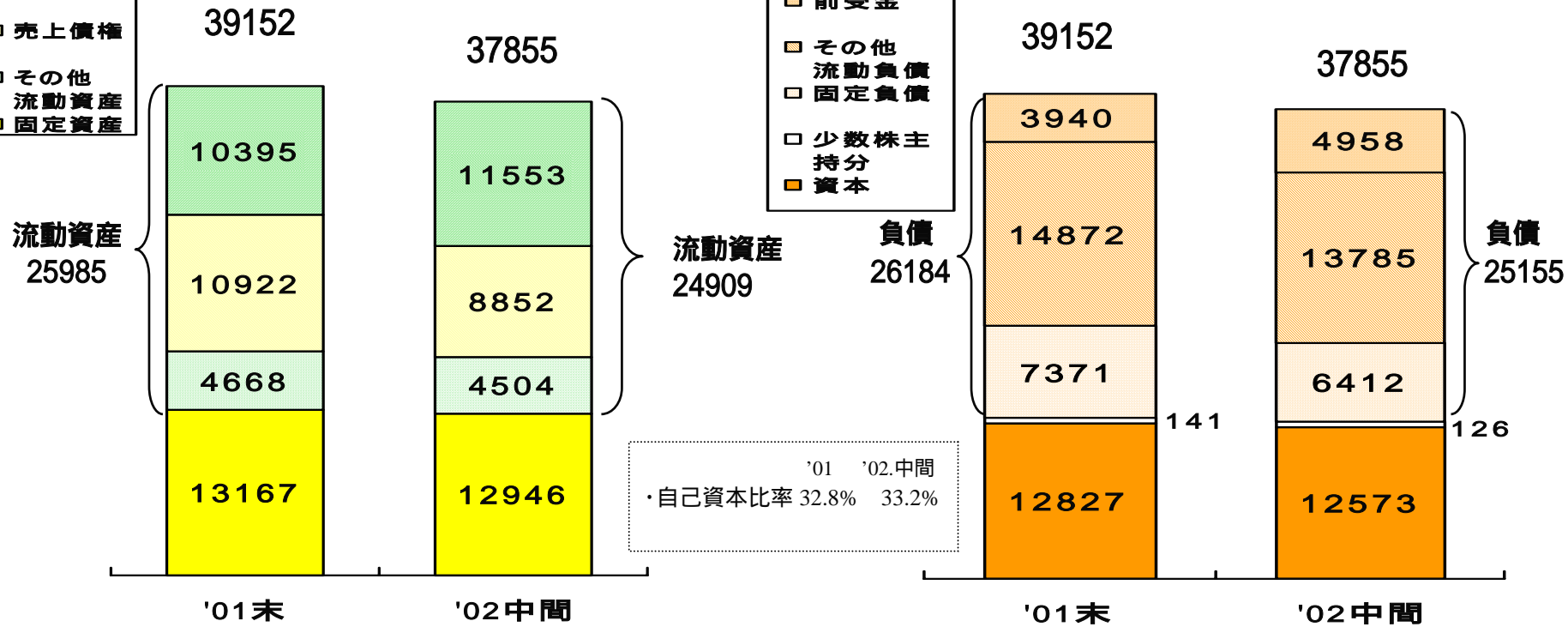
負債・資本

及び少数株主持分

(億円)

- 棚卸資産
- 売上債権
- その他流動資産
- 固定資産

- 前受金
- その他流動負債
- 固定負債
- 少数株主持分
- 資本



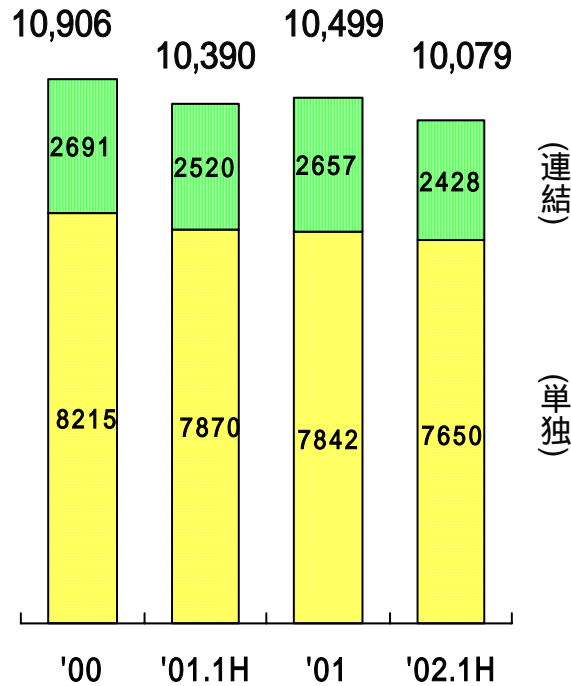
資産増減(1297)
 流動資産 1075(売上債権 2070、棚卸資産+1158 他)
 固定資産 221(投資有価証券 119、
 繰延税金資産 122 他)

負債増減(1028):流動負債 68
 (前受金+1017、買入債務 1112 他)
 固定負債 959
資本増減(253):利益剰余金 380、評価差額金+74 他

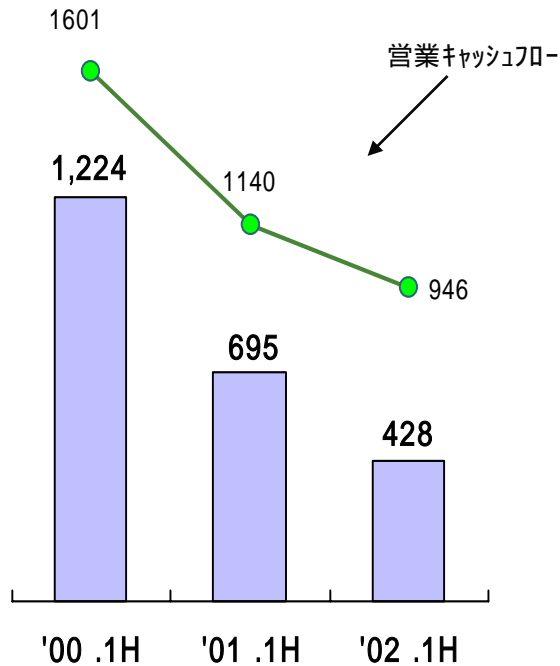


有利子負債・キャッシュフロー

有利子負債 (億円)



フリーキャッシュフロー (億円)



'02中間期の概要

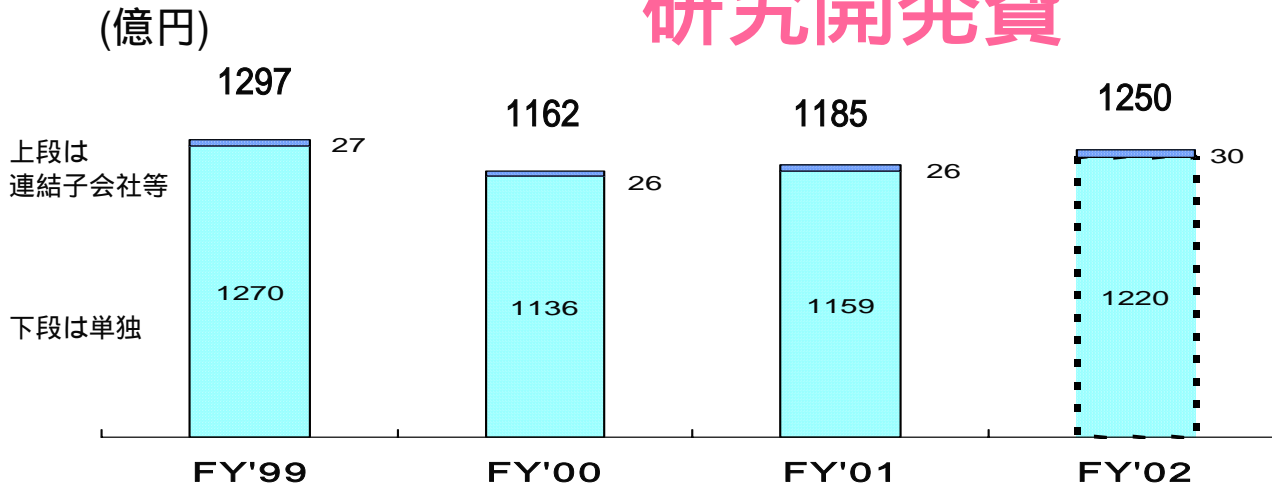
•営業キャッシュフローは946億円のプラスとなり、これに投資キャッシュフロー(517億円)を加えたフリーキャッシュフローも428億円のプラスとなった。

•これにより借入金の返済を推し進め、'01末より有利子負債を 420億円圧縮した。

	'02中間	'01中間	増減
営業CF	946	1,140	194
投資CF	517	445	72
フリーCF	428	695	266
財務CF	447	680	232

* CF=キャッシュフロー

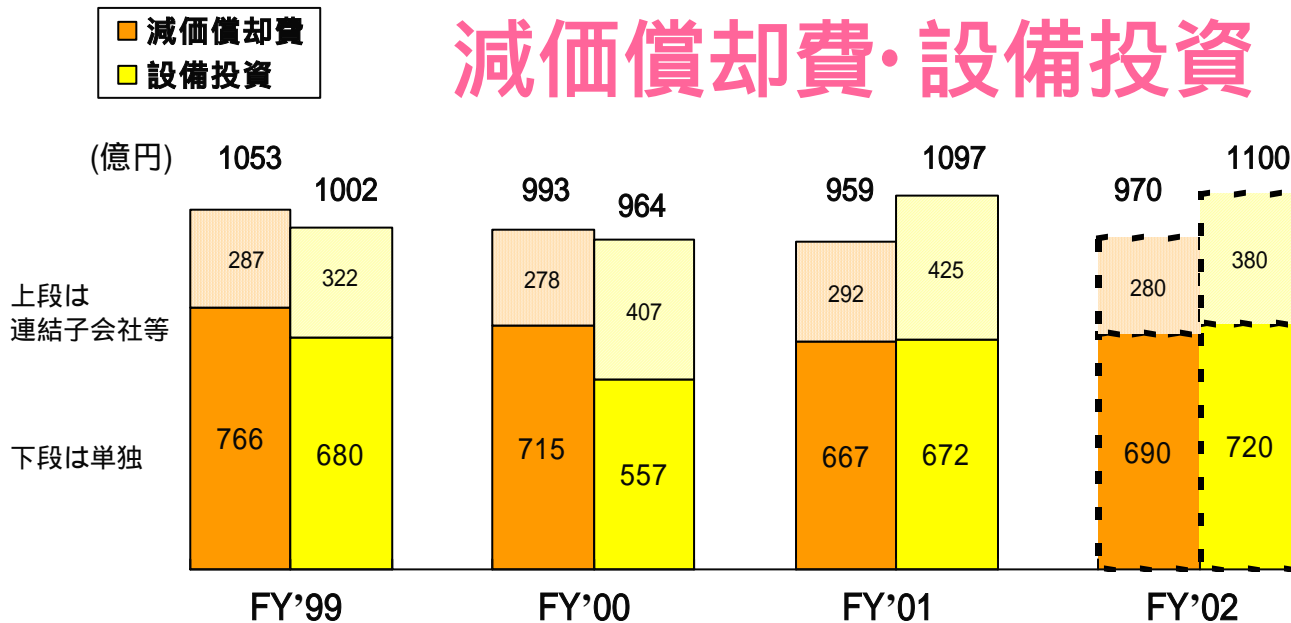
研究開発費



・主力分野を中心に積極的に投資(増加)

- ・ガスタービン
- ・太陽電池
- ・燃料電池 他

減価償却費・設備投資



・生産設備の拡充を中心に減価償却費を上回る設備投資継続

- ・ガスタービン高温部品増産対応
- ・太陽電池製造設備
- ・交通システム工場近代化

他

2002年度 単独中間決算の概要

(億円)

	'02中間期	'01中間期	増減	増減率
受注高	5,967	7,566	1,598	21.1%
売上高	8,901	10,379	1,478	14.2%
営業損益	206	161	45	28.0%
経常損益	33	62	96	-
特別損益	18	131	149	-
税引前損益	15	68	53	-
当期損益	8	17	8	-

特別損益(18)の内訳: 投資有価証券等評価損 14
 投資有価証券売却益 + 32

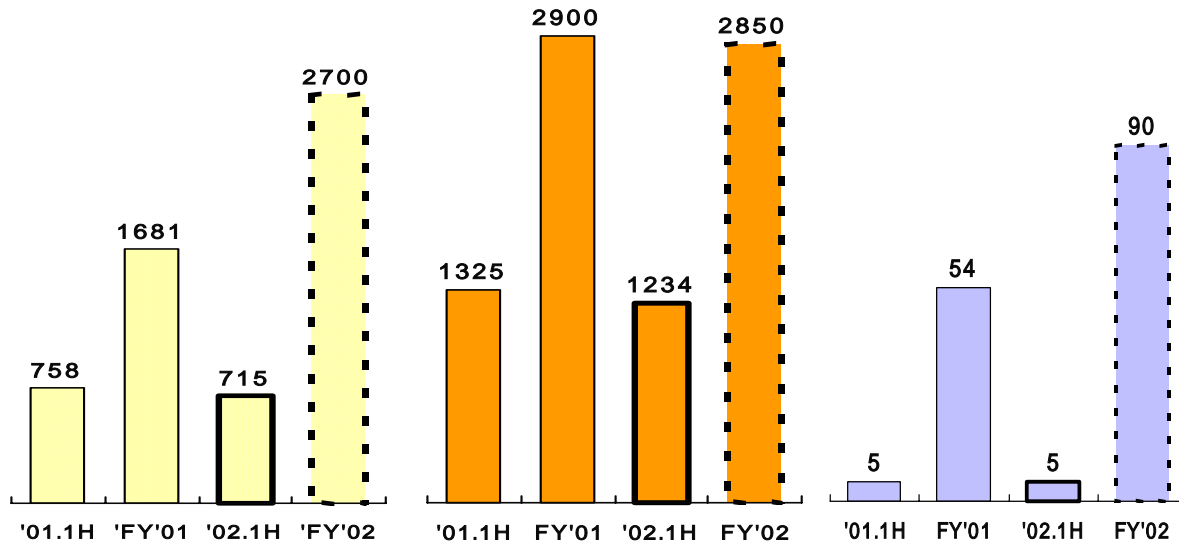
船舶・海洋

(億円)

受注高

売上高

営業損益



(輸出比率 (単独))

53.1% 56.9% 54.6%

(隻数 (単独))

6隻 (221KGT) 14隻 (558KGT) 7隻 (180KGT)

52.0% 52.8% 63.9%

6隻 (192KGT) 17隻 (574KGT) 6隻 (423KGT)

[事業環境・受注]

- 世界的不景気により世界の新造船需要は大きく下落、発注量も減少
- 中間期はLNG船1隻・しゅんせつ船1隻他、計7隻受注 (手持41隻、内LNG船8隻)

[売上/損益]

- 中間期は国内船引渡隻数減少等で減収となったが、損益は前年同期並み

[トピックス]

- 人員削減等固定費圧縮を継続
(事業人員) 5,610 5,380 5,160 4,920人
('00/4) ('01/4) ('02/4) ('03/4予定)

< 通期業績見通し: 受注 / 売上 / 損益 >

FY'02見通し: 2700 / 2850 / 90
(期初 2700 / 2850 / 90)

FY'01実績 : 1681 / 2900 / 54

(注)英国P&O向客船「ダイヤモンド・プリンセス」の火災事故(2002.10.1発生)に関しては、現時点で被害状況に基づく損失見込額を合理的に見積もることができない為、2002年度中間期実績及び通期見通しに含めておりません。

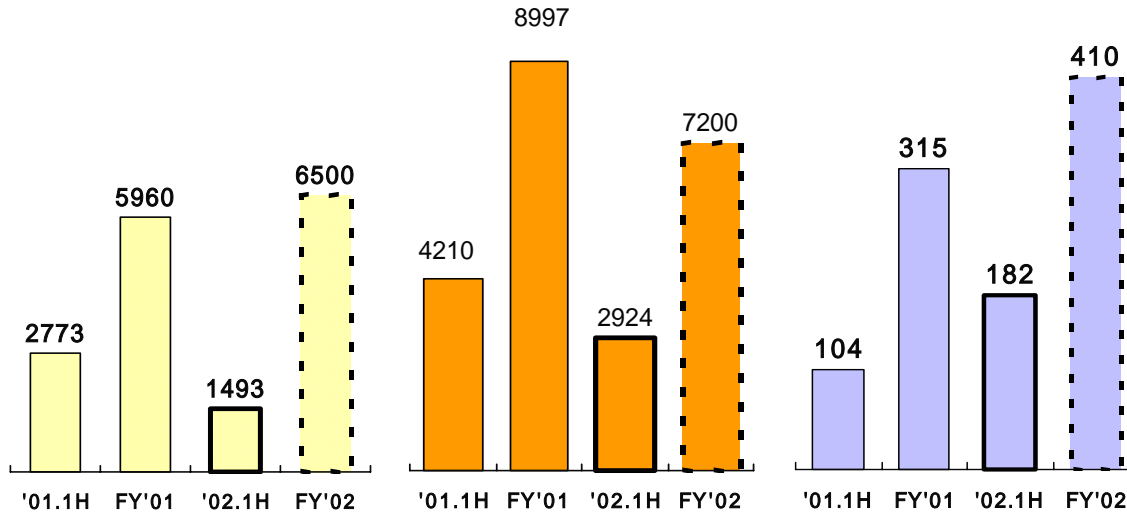
原動機

(億円)

受注高

売上高

営業損益



(ガスタービン手持受注台数 (単独))

70台 59台 46台
(内北米向)
20台 15台 12台

[事業環境・受注]

- 国内は電力関連の設備投資削減が続き、依然厳しい事業環境
- 海外は米国で経済減速と供給力過剰による計画の延期あり、欧州・アジアは比較的堅調
- 中間期は、国内改良・サービス工事の減少と北米向輸出ガスタービンの発注繰延べ等の影響で前年同期比減少

[売上/損益]

- 中間期はアジア向大型プラントを中心とする輸出工事の減少で減収となったが、不採算案件の減少及びコスト改善により増益

[トピックス]

- ガスタービン:東方電気集团公司と協調し、中国大型G/T商談への入札資格取得
- 原子力 :米国・スウェーデンより上部原子炉容器受注

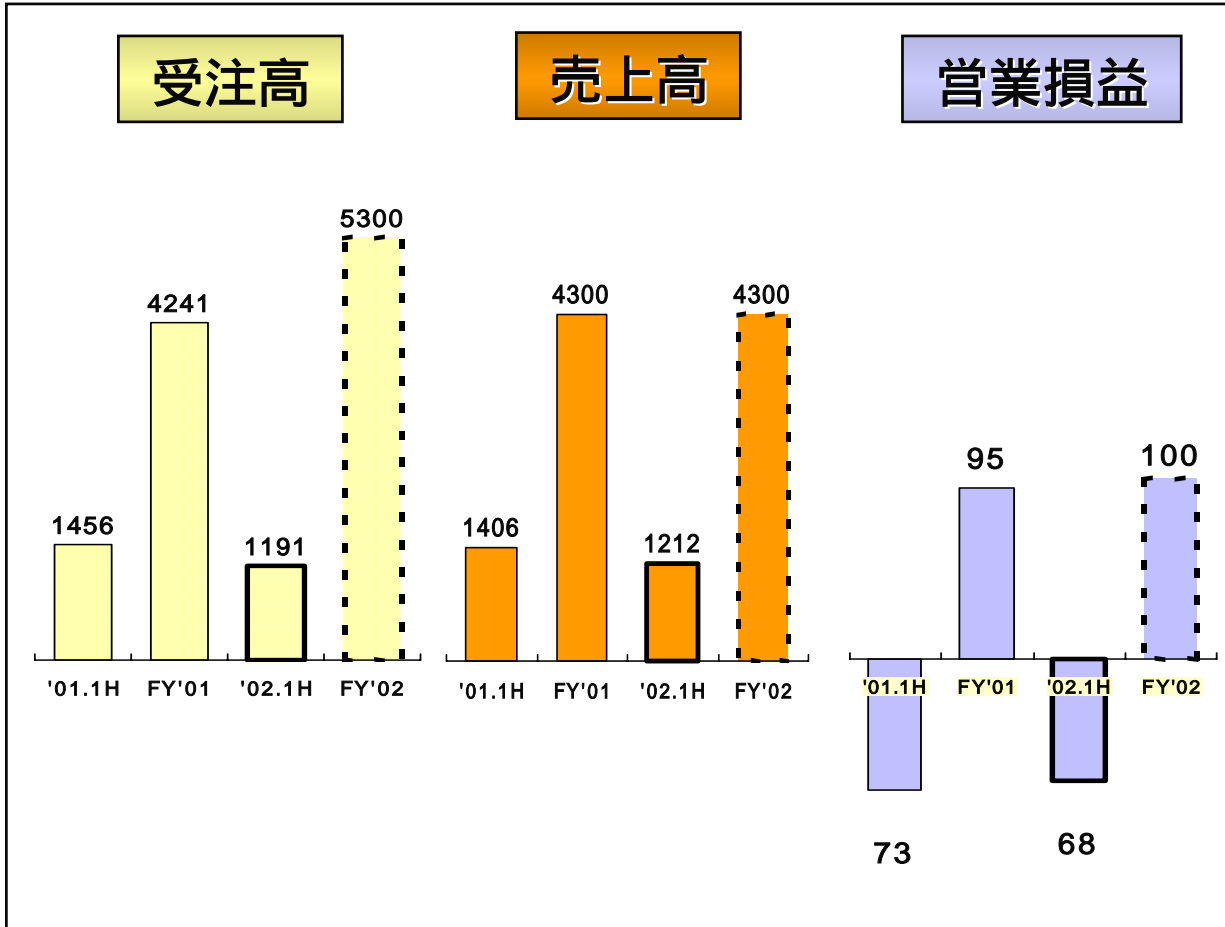
< 通期業績見通し: 受注 / 売上 / 損益 >

FY'02見通し: 6500 / 7200 / 410
(期初 6500 / 7200 / 320)

FY'01実績 : 5960 / 8997 / 315

機械・鉄構

(億円)



[事業環境・受注]

- 国内は公共投資が依然低調
- 輸出では交通システムが伸長、化学プラントの大型商談も継続中
- 中間期は国内環境装置(廃棄物処理装置)でダイオキシン対策工事が一巡したこと、及び大型案件の成約が下半期となったこと等により、部門全体では前年同期比減少

[売上/損益]

- 中間期は国内環境装置で増加したが、化学プラント他で輸出工事が減少し、部門全体では減収、固定費回収不足により損益は前年同期並の赤字

[トピックス]

- 台湾新幹線:第4・5工区の軌道工事を受注
- 交通システム :信号システムで(株)京三製作所と業務協定締結

< 通期業績見通し: 受注 / 売上 / 損益 >

FY'02見通し: 5300 / 4300 / 100
(期初 5300 / 4300 / 100)

FY'01実績 : 4241 / 4300 / 95

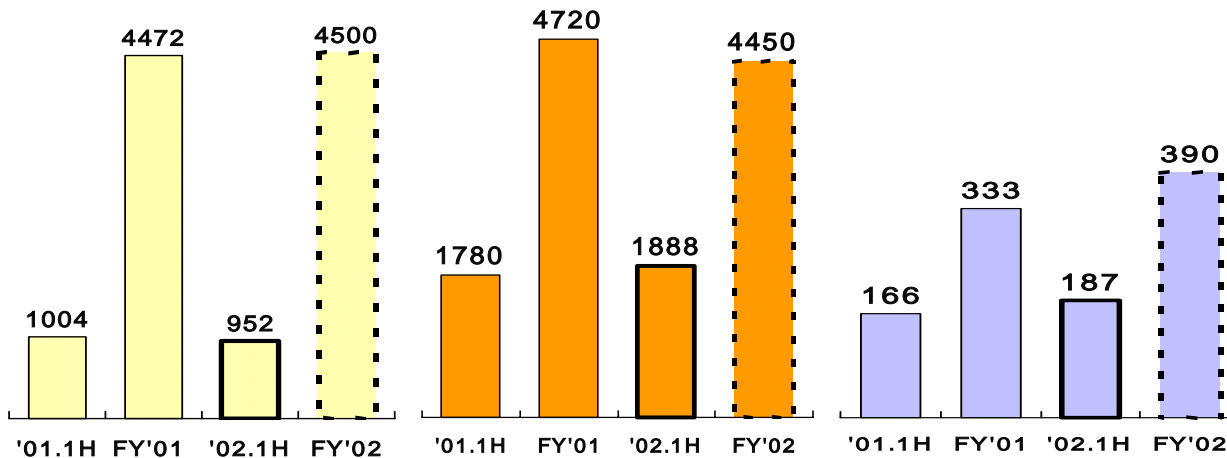
航空・宇宙

(億円)

受注高

売上高

営業損益



<引渡機数>

B777: 31機 '01.1H 61機 FY'01 18機 '02.1H 35機(予定) FY'02
 F-2 : 4機 '01.1H 10機 FY'01 2機 '02.1H 8機(予定) FY'02

[事業環境・受注]

- 防衛関係は、今年度予算でほぼ例年並みの水準を確保
- 中間期はB777等民間機が米国同時多発テロの影響で減少、部門全体でも微減

[売上/損益]

- 中間期はB777の引渡機数減少等により民間機部門で減収となったが、防衛関係でパトリオットミサイルの納入増等により売上が増加し、部門全体では増収・増益

[トピックス]

- 2002.6:エアバス A380用貨物ドア製作工事を受注
- 2002.6:哨戒ヘリコプターSH-60K試作機(2機)を納入
- 2002.9:実用衛星を搭載したH- A3号機の打上げに成功

< 通期業績見通し: 受注 / 売上 / 損益 >

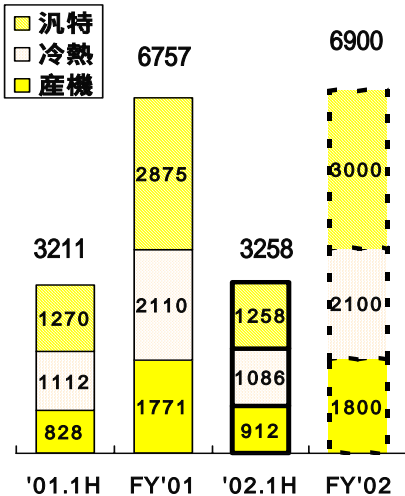
FY'02見通し: 4500 / 4450 / 390
 (期初 4500 / 4450 / 340)

FY'01実績 : 4472 / 4720 / 333

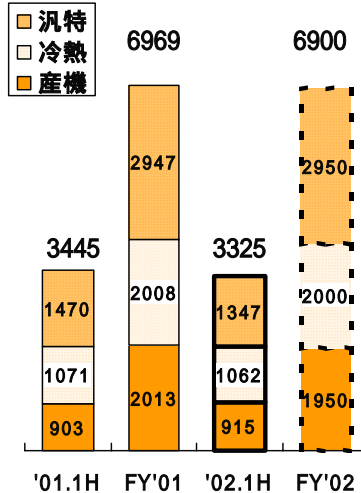
中量産品

(億円)

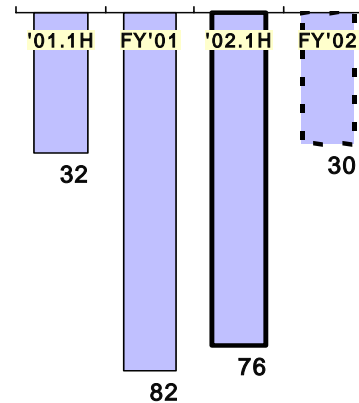
受注高



売上高



営業損益



[事業環境・受注]

•海外は米国向が景気悪化の影響で低迷、アジアは中国向を中心に需要旺盛

•国内は景気低迷の影響もあり、全般的に振るわなかったが、印刷機械等中国向の産業機械輸出が増加し、部門全体では前年同期比増加

[売上/損益]

•産業機械の需要増で輸出売上高は増加したが、国内で冷熱製品を中心に販売量減少及び販売価格の下落あり、減収・減益(赤字)

[トピックス]

- 工作機械:中国・自動車メ-カ-向加工ライン受注
- 冷熱:北米向カ-エアコンシステム受注、2004年より量産開始

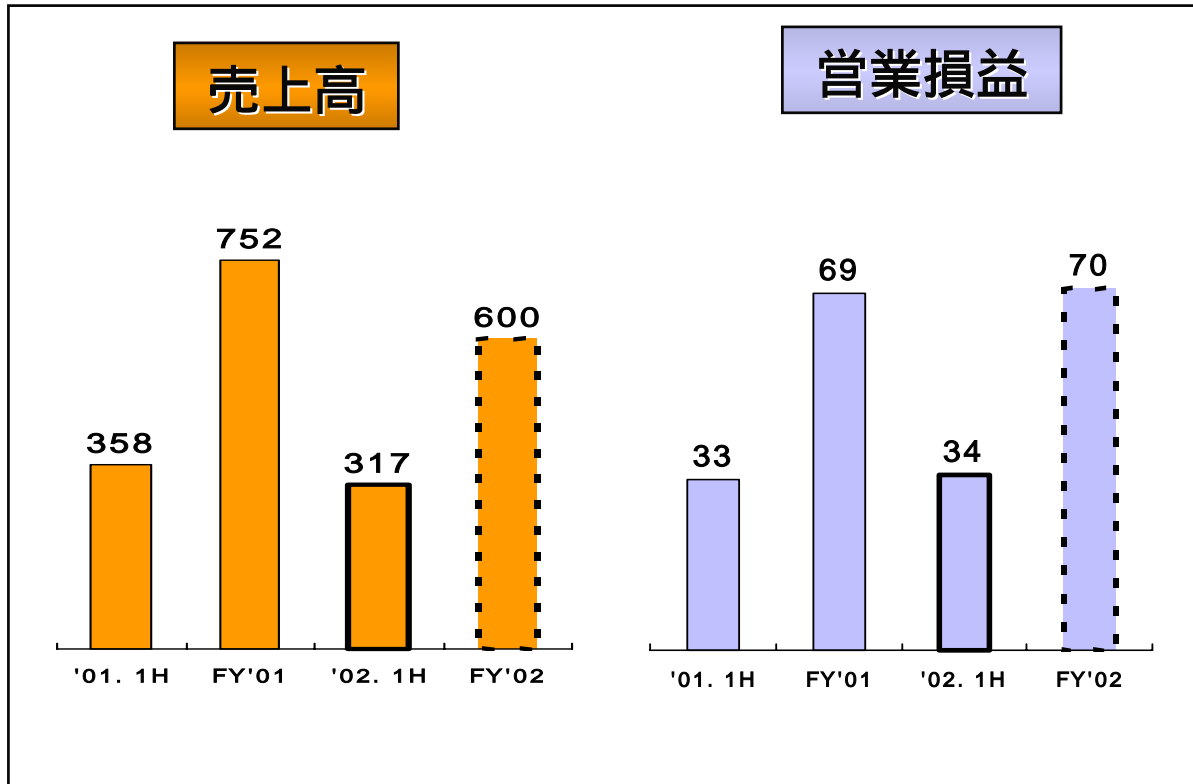
< 通期業績見通し: 受注 / 売上 / 損益 >

FY'02見通し: 6900 / 6900 / 30
(期初 6900 / 6900 / 0)

FY'01実績 : 6757 / 6969 / 82

その他

(億円)



- ・ 建築・不動産
- ・ 情報・通信サービス
- 他

<通期業績見通し: 売上 / 損益>

FY'02見通し 600 / 70
(期初 600 / 70)

FY'01実績 752 / 69

2002年度 通期の業績見通し(連結)

(年度)

(単位:億円)

	'01	'02	
	実績	期初見通し	今回見通し
受注高	24,249	27,000	27,000
売上高	28,639	26,300	26,300
営業損益	786	920	1,030
経常損益	679	800	800
税引前損益	480	800	800
当年度損益	264	450	450

客船火災事故に関しては、現時点で被害状況に基づく損失見込額を合理的に見積もることができない為、見通しに織込んでおりません。

為替レートは1ドル=@ ¥125,11-0=@ ¥115の前提 (未確定29億ドル, 2億1-0)

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみには依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。

年度見通し(受注)

上期の総括

実績は低水準

1. 官公需、電力設備投資の減少継続(織込済)
2. 北米GTCC市場縮小
3. 輸出プラントの商談繰延べ
4. 原子力米国向け原子炉容器上蓋受注

下期の取組み

輸出プラントの受注がキー

1. 原動機

- ・中国・東南アジア・欧州・南米の商談活況 (G/T: 中国東方電気集团公司と提携)

2. 機械・鉄構

- ・ごみ焼却炉: 宮崎、鹿児島向け2プラント受注
- ・新交通システム: 米国ダレス国際空港向け受注内定、台湾新幹線軌道工事商談中(2,3工区)
- ・排煙脱硫装置: 北米市場拡大に対応
- ・化学プラント: 肥料、メタノール、GTL等大型商談

3. 航空・宇宙

- ・ボーイングから継続的に受注獲得
- ・ボンバルディア減産の影響は軽微

GTCC: Gas Turbine Combined Cycle

G/T: Gas Turbine

GTL: Gas to Liquid

年度見通し(損益)

上期の総括

1. 最終損益黒字化 (開示を始めた'99年9月中間期以降 初めての中間期黒字化)
2. 原動機、航空・宇宙の営業利益拡大
3. 中量産品
 - 汎特, 産器, 紙印刷は順調
 - 冷熱
 - ・カーエアコンは改善目途
 - ・ルームエアコンが依然低迷
 - 工作機械
 - ・黒字化目途

下期の課題

1. 中量産品の事業改善対策
 - ・冷熱 : ルームエアコン再建 20ページ
 - ・工作機械 : 安定的黒字体質の確立(事業体質強化) 21ページ

冷熱事業 損益改善対策

上期の成果と課題

1. カーエアコン/米国(MCC社)

- ・ 現行機に係る資材費・固定費の徹底的なコストダウンにより、当年度損益は大幅改善。
次年度から黒字化達成の見通し
- ・ 北米顧客より次機種を大量受注

2. 業務用エアコン/中国(MHAQ社)

- ・ ハイアール社との合併で工場増設、生産能力拡大し、ビル用マルチエアコン拡販(9月末稼働開始)

3. ルームエアコン

- ・ 国内ルームエアコンは売価ダウンにコストダウン努力が追いつかず、依然赤字

今後の打ち手

1. 得意とする冷熱事業の強化

- ・ 業務用エアコン : 製品戦略の再構築(ハイパーインパクト投入, 枇杷島工場に新ライン設置&SCM導入)
- ・ カーエアコン : 海外事業の拡大(GM, ダイムラー・クライスラー他)
- ・ 輸送冷機 : 更なる技術改善で新製品投入(トラック用新型冷凍ユニットで受注拡大)

2. ルームエアコン事業再建

- ・ 販売 : 得意機種への絞り込み, 採算重視の受注徹底, 輸出強化
- ・ 生産 : タイMACO社に生産拠点集約
- ・ 固定費削減 : 人員の業務用エアコン・輸送冷機他へのシフト, 販社を含めたスリム化

工作機械事業 損益改善対策

事業の現況

自動車関連製品は堅調（自動車向け工作機械・工具・部品）
マシニングセンタと大形機は市場の激変に見舞われ競合激化



新製品投入，コストダウン等の成果をあげつつあるも安定的黒字化の為，
更なる強化が必要。

改善対策

1. 基本方針

マシニングセンタと大形機の競争力強化を図り，工作機械事業の安定黒字化を実現

2. 重点施策

設計開発力の強化

- ・ 新商品の連続市場投入
- ・ 技本との連携強化（総合技術力活用：材料，構造・振動，トライブ・ロジック等）

製造体制の強化 生産統合による大幅コストダウン

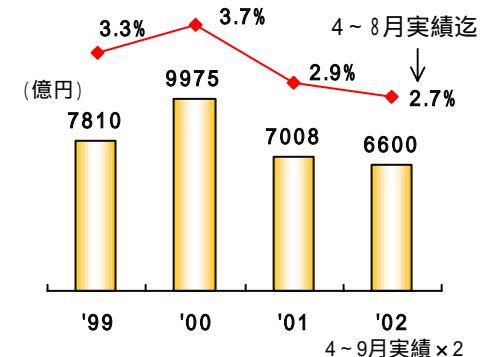
- ・ 栗東に新鋭工場建設（'03/10竣工） 広島（祇園）工場を，栗東に移転・集約して生産二分体制を解消

販売・サービスの強化

- ・ 国内営業の強化 [CSセンター開設（'02/8開設），販社体制見直し他]
- ・ 輸出営業の強化 [中国にサービス員配置，欧州・東南アジア（含、中国）に営業拠点設置]

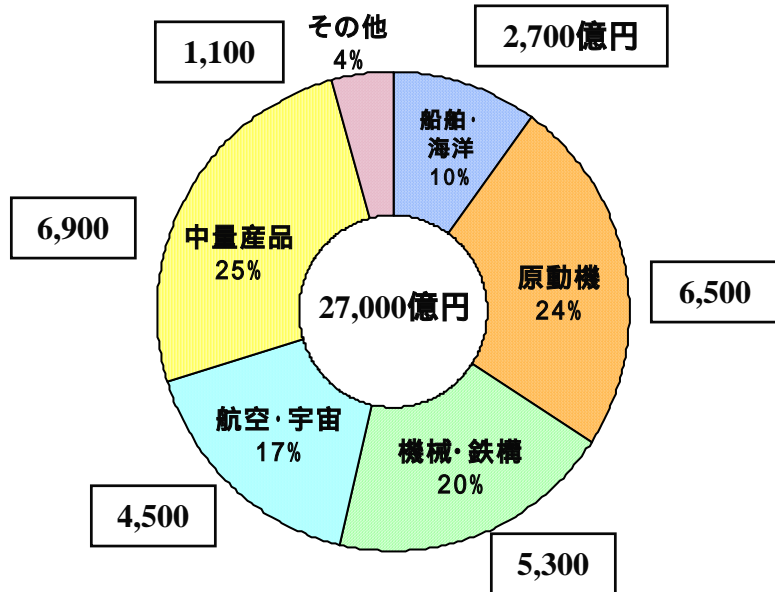
工作機械の総需要と

マシセン・大形機の当社シェア推移

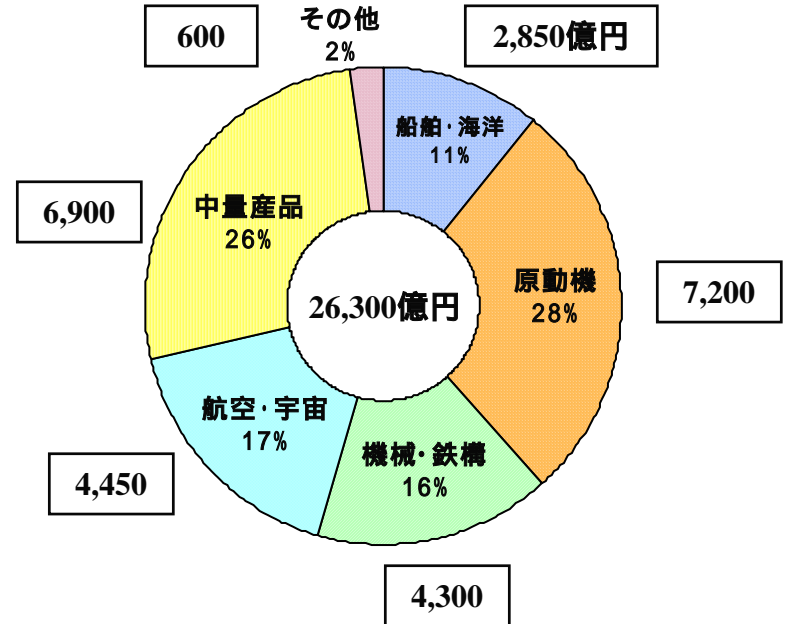


連結セグメント別・2002年度見通し

受注高



売上高



2002年度 通期の業績見通し(単独)

(年度)	(単位:億円)		
	'01	'02	
	実績	期初見通し	今回見通し
受注高	19,704	23,000	23,000
売上高	23,886	22,000	22,000
営業損益	668	810	910
経常損益	594	700	700
税引前損益	334	700	700
当年度損益	224	400	400
一株当たり年間配当金	4.0円	6.0円	6.0円

本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみには依拠して投資判断を下すことは控えるようお願い致します。実際の業績は様々な重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レートなどが含まれます。